

令和3年10月23日

南の風 For Junior66

南部地区ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

For Junior61 でドリブルスクリーンモーションオフェンスを紹介しました。

その折に、二人の方から連絡をもらいました。一人は中学の指導者の方、もう一人は高校の女子選手でした。お二人とも共通していました。

中学の指導者の方は、「東京オリンピックの女子の戦術を観て、5アウトのドリブルドライブモーションオフェンスを知りたいので、取り上げてください」ということでした。

高校の女子選手は「自分の高校で、ドリブルドライブのオフェンスをやっています。少し詳しく知りたいので教えてください」というものでした。

最初に5アウトについてです。

5アウトというのは、選手の皆さんもネーミングは知っていると思います。オフェンスの5人がアウトサイド（高校生以上は3Pライン辺りに、ミニバスや中学生は3Pラインより内側）にポジションを取りをし、ペイントエリアを空けてドライブ、カット、スクリーンを使って外から崩す攻め方です。

5アウトの目的は、身長がそれほどなくても、ドライブの速さやリアクト、正確なスクリーンプレー、カッティングを駆使して、ペイントに侵入して期待値（確率のよい）の高いシュートを打つことです。また、それぞれのオフェンスの距離を2ギャップ程度離し、ディフェンスのヘルプをでき難くすることです。

具体的な攻め方は、コーチやチームの考え方で変わってきます。

日本女子代表がオリンピックで見せた5アウトは、私が確認したものは以下の通りでした。

①ドラッグスクリーンからの攻め。

ドラッグスクリーンとは、ポケットエリア（センターラインと3Pライン辺りでかけるスクリーン）です。例えば町田選手がボールを運ぶ時に、高田選手が町田選手のDefにスクリーンを掛けて、町田選手をノーマークにしたり、次の展開を有利にしたりすることです。ダブルドラッグの場合もありました。

②バックカットの合わせ

例えば町田選手がドライブでペイントに侵入した時に、コーナーにいた赤穂選手のDefが町田選手に気を取られた瞬間に、赤穂選手がバックカットしてリアクトすることです。

③ヘルプサイドカット

トップの町田選手がボールを持っていたとします。右ウイングが林選手、左ウイングが高田選手とします。町田選手が林選手にパスした瞬間、高田選手がカットしてペイントにダイブするプレーです。高田選手のDefはパスが逆サイドに行くと、一瞬、油断して気が緩みます。そこを逃さず鋭くカットインするのです。

通常ではボールサイドカットが基本ですが、日本女子代表は相手の心理をうまく読んでヘルプサイドからの攻めが多かったと感じました。